

## 令和2年度「知事と市町長の1対1対談」（亀山市）概要

- 1 対談市町 亀山市（<sup>さくらい</sup>櫻井 <sup>よしゆき</sup>義之 亀山市長）
- 2 対談日時 令和2年10月14日（水）10:30～11:30
- 3 対談場所 亀山市総合保健福祉センターあいあい 2階大会議室
- 4 対談項目1 新型コロナウイルス感染症の対策について  
対談項目2 オンライン学習における学習コンテンツの充実について  
対談項目3 リニア中央新幹線の全線開業に向けた取組について  
対談項目4 国道306号川崎庄内バイパス及び鈴鹿亀山道路の整備について

### 5 対談概要

#### 対談項目1 新型コロナウイルス感染症の対策について

（市長）

新型コロナウイルス感染症対策については、引き続き危機感を持って、県と市町が連携して取り組む必要があると感じています。

亀山市では、国・県からの緊急対策・方針をふまえながら、第1弾から第4弾までにおよぶ34事業、事業費ベースで総額約60億円の「新型コロナウイルス感染症対策・緊急政策パッケージ」を展開しています。

その取組の一つとして、今冬に予想される季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行による医療の混乱や重篤化を防ぐため、感染リスクが高い市民を対象とした「インフルエンザ予防接種費用の無償化」についても取り組んでいます。

既に、亀山市立医療センターでも令和2年10月1日から予防接種を実施しており、例年より多くの市民が接種に訪れている状況です。

また、国は季節性インフルエンザの流行に備え、まずは地域の身近な医療機関に相談・受診する体制を整備するよう示していますが、土曜日、日曜日、夜間および年末年始の発熱患者等の診療体制に不安を感じているところです。

こうした状況をふまえ、県として、県内におけるインフルエンザワクチンの総量確保に努めていただくとともに、同時流行期における市内医療機関の混乱を最小限に抑えられるよう、相談・受診・検査の体制について、さらなる国への支援を要請していただき、県と市町の協働体制が一層充実できるようご配慮をお願いいたします。

(知事)

インフルエンザワクチンについては、一般の医薬品に比べて製造に時間を要し、追加の増産が難しい中、令和2年度は例年よりも多い約6,300万人分のワクチンを国が確保する見込みであり、県として、安定的な供給・確保をしっかりと国に働きかけていきます。そのため、市民・県民の皆さんにおいては、慌てず、混乱することのないよう心掛けていただきたいと思います。

高齢者の方や基礎疾患をお持ちの方等に、インフルエンザワクチンが行きわたるよう、市町と連携しながら取り組むとともに、医薬品卸売販売業者や医療機関に対し、地域によってインフルエンザワクチンの供給に偏りが生じないように、安定した供給に対する協力をお願いしていきます。

季節性インフルエンザ流行に備えた診療・検査体制については、かかりつけ医等、身近な医療機関を受診いただくなど国のスキームを基本としつつ、地域の実情に応じて、保健所等が関わるなど、安心してスムーズに検査が受けられるよう、三重県医師会等と相談しながら検討していきます。

土曜日、日曜日、祝日等の診療体制や感染防止対策等、現場に混乱が生じない体制整備に関しても、専門家の意見を聴きながら議論しているところです。令和2年10月中に、医療関係者の方々との対策協議会を開催して診療体制の整備等について決定し、対応していきたいと考えています。

また、発熱患者等の診療・検査体制に協力いただく医療機関に対しては、医療従事者の感染対策のために必要な个人防护具の配布や診療体制の確保、設備整備に係る補助を行うこととしており、国に対して補助制度のさらなる充実を求めています。

現行の支援制度である「インフルエンザ流行期に備えた発熱患者の外来診療・検査体制確保事業」は、より多くの発熱患者を診察するほど、補助金の交付額が減少するスキームとなっていることから、医療関係者から「感染リスクを抱えながら診察を行う医師のモチベーションの低下につながる」との指摘をいただいています。このような点が見直されるように、国に対してしっかりと働きかけを行うとともに、市町、医療機関、医師会等と連携して、市民・県民の皆さんに安心していただけるインフルエンザ流行期の対応をしていきたいと思っています。

## 対談項目2 オンライン学習における学習コンテンツの充実について

(市長)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による学校一斉休業等により、GIGAスクール構想を含め、オンライン学習に係るハード面での整備は一気に進みました。

亀山市では、県教育委員会が運用している「みえびい学びの応援サイト」の活

用や、独自の学習動画や教材コンテンツの作成を行い、ケーブルテレビで放映するなど、学びの保障を行ってきましたが、各市町や各学校レベルで工夫して作成している状況です。

そのため、「みえびい学びの応援サイト」のさらなる充実を図っていただくよう要望します。その際に、各市町や学校が作成した優れたコンテンツについても「みえびい学びの応援サイト」において活用できるよう、県がコーディネート機能を担うことが有効であると考えます。

オンライン学習は、新型コロナウイルス感染症への対応に限らず、日常の授業や予習・復習等での活用、不登校児童・生徒の学習での活用など、今後、さまざまな場面において活用できると思います。膨大な数が作成されている動画を、学年や教科ごとに活用できる仕組みにするなど、三重県としてのスタンダードモデルを構築することにより、このサイトがより活用されると考えます。

また、オンライン学習の推進にあたっては、各家庭等の通信環境が整備されていることが前提となるため、学びの保障の観点から、家庭ごとに格差が生じないよう、県と市町が共通認識のもと、国に対して、環境整備や通信費に対する支援を行うよう働きかけを強化していくことが必要であると考えます。

(知事)

亀山市では、ケーブルテレビ（ZTV）を活用し、積極的に学習コンテンツの作成や配信を行っていただいているほか、学びの保障という観点から、端末購入やインターネット通信費の補助などについてご対応いただき感謝申し上げます。

「みえびい学びの応援サイト」は、令和2年5月1日から、オンライン学習に役立つ情報を集約するポータルサイトとして開設し、学習プリントに加え、国語・算数の基礎的な内容や理科実験、工作に関わる動画を作成し、随時配信しています。あわせて、三重テレビ放送を活用して「三重県子どもの学び応援チャンネル」を開設し、これらの動画を令和2年5月14日から5月29日に放映したところです。

オンライン学習の経験を経て得られたさまざまな課題に対応するため、令和2年9月29日、各市町および県教育委員会の担当者による「小中学校におけるICT教育推進連絡会議」を設置し、月1回具体的な取組内容を協議しています。その中で、県、市町、学校が作成した学習コンテンツ等を学校内外の教職員間で共有できる仕組みについても、年内に具体案を取りまとめ、希望する市町に参加いただけるよう準備を進めたいと考えています。

オンライン学習における通信費の補助については、引き続き国への要望を行うとともに、有償ソフトウェアの購入、機器更新時の費用等に係る財政支援についても国に要望を行います。デジタル技術は便利なものであると同時に進化し

続けるものであるため、必要な費用は総合的にしっかり支援できるよう進めていきたいと思えます。

### 対談項目3 リニア中央新幹線の全線開業に向けた取組について

(市長)

リニア中央新幹線の推進について、県において、三重・奈良・大阪3府県や東海3県および名古屋市との連携等を通じた三重県駅の設置に向けた取組や、JR東海との意見交換を進めていただいています。

また、令和2年7月のリニア三重県期成同盟会令和2年度総会では、会長である知事から、県内駅位置の候補案をまとめていく作業にとりかかっている旨の提案がありました。さまざまな課題はあるものの、概略ルートや駅位置が決定していない名古屋以西において、三重県のリニア整備が新たなフェーズに進む契機になるものと認識しています。

こうした動向もふまえて、亀山市として、四半世紀以上にわたる官民連携の取組や活動を礎に、早期全線開通と市内停車駅誘致に向けたさまざまな取組をさらに強化していきたいと考えています。

つきましては、県においても、引き続き、県内をはじめ名古屋以西において全線開業に向けた気運醸成がさらに高まるよう、県内停車駅の環境整備など、県内市町や関係団体との連携によるさらなる取組の強化を図っていただきますようお願いいたします。

(知事)

県においては、東京・名古屋間の動向にかかわらず、令和19(2037)年の名古屋・大阪間の開業に向け、全力かつ粛々と準備を進めていきたいと考えています。

令和2年7月に開催したリニア三重県期成同盟会令和2年度総会において、私から各市町の皆さんに対し、名古屋・大阪間の工事着手前に実施される環境アセスメントの最初の手続きである配慮書に盛り込むための駅位置に関するご提案をお願いしたところです。この配慮書では今まで20km幅で示されているルート幅が、3km幅に絞られるとともに、直径5kmの範囲円で駅位置が示されることとなります。これにより、極めて具体的な方向性が見えてくることから、アクセス道路や、環境・まちづくり等についても考えられる素材ができますので、それらを早く決めていくことが大切だと考えています。

市町からのご提案をいただき、令和3年度に有識者からご意見を伺いながら、配慮書が公表される前年である令和4(2020)年頃のリニア三重県期成同盟会総会で駅位置候補にかかる決議を行い、JR東海への要望につなげていきたいと

考えています。

県が平成 30 年度に実施した e モニターアンケートでは、「東京・名古屋間が令和 9（2027）年に開業予定であること」を知っている方が 55%、「名古屋・大阪間が最短令和 19（2037）年に開業予定であること」を知っている方が 19% でした。このように、県民の皆さんのリニア中央新幹線に対する認知がまだ低い  
ため、具体的な手続きを進めていくにあたってしっかりと気運醸成を図って  
いきたいと考えています。

令和元年度にリニア開業の効果に関する調査結果をまとめたリーフレットを  
作成したほか、県内の高校でリニアをテーマに研究取組を行っていただき、成果  
発表に向けたヒアリング調査等に協力しました。また、令和 2 年度は中止となり  
ましたが、県内の小学生と保護者を対象に名古屋市のリニア・鉄道館で学習会を  
実施し、そこでの感想に加え、リニアに寄せる思いなども伺い、啓発の素材とし  
て活用したいと考えています。さらに、中部国際空港利用促進協議会と三重大学  
が共催で毎年開催しているセミナーに、今後はリニア開業の視点も加えて実施  
していきたいと考えています。

このように、令和 19（2037）年のリニア開業について、県民全体、とりわけ、  
リニア新幹線を多く利用することになるであろう若い世代の方に対し、積極的  
な啓発活動を行っていききたいと思います。

今後もしリニア開業に向け、引き続き市町と連携してしっかりと取り組んでい  
きます。

#### 対談項目 4 国道 306 号川崎庄内バイパス及び鈴鹿亀山道路の整備について (市長)

令和元年度の新名神高速道路の三重県内全線開通により、東名阪高速道路の  
渋滞解消等に大きな効果がありました。さらには、鈴鹿亀山道路の整備について  
も令和 3 年 2 月に都市計画決定まで進めていただき、感謝申し上げます。

鈴鹿亀山地域の幹線道路、高速道路とのネットワークを考える中で、国道 306  
号川崎庄内バイパスおよび(仮称)川崎下庄線インターチェンジを含む鈴鹿亀山  
道路の早期整備については、引き続き県および鈴鹿市と協力し、円滑に推進する  
必要があります。

加えて、鈴鹿亀山道路の整備にあたっては、生活交通と通過交通を分離するな  
ど、地域住民およびドライバーの安全性を十分に確保する必要があると考  
えています。

事業促進の初期活動として、鈴鹿亀山道路のインターチェンジが設置される  
予定の国道 306 号川崎庄内バイパスの事業着手に対しては、地元調整や用地買  
収等での地域の意見を集約するなど、県および鈴鹿市との関係者間で事業調整

を図るとともに、課題・懸案事項等の解決に向け、亀山市としても積極的に協力したいと考えています。

国道 306 号川崎庄内バイパスは、そのほとんどが農地沿線となることから、側道を設置するなど、農耕活動の利便性に配慮した道路構造となるよう検討をお願いします。

また、道路線形については、道路周辺の集落内への騒音について十分に配慮されるとともに、市道からの乗り入れ交差点については、安全で充実した周辺道路ネットワークとなり得る構造整備をお願いします。

このほか、鈴鹿亀山道路の推進にあたっては、環境影響評価結果や埋蔵文化財等の保全等に十分配慮した上で、亀山市の各担当課等と協議を行いながら、事業進捗を早期に、かつ円滑に図られるよう、引き続きご尽力いただきますようお願いいたします。

(知事)

鈴鹿亀山道路については、三重県都市計画審議会での審議を経て、令和 3 年 2 月に都市計画決定がなされる見込みです。これに先立ち、令和 2 年 11 月に亀山市・鈴鹿市の都市計画審議会が予定されていますので、よろしくご審議いただくようお願いするとともに、これまでのご尽力に心から敬意を表します。都市計画決定後は早期に事業着手することが大切であるため、引き続き国への働きかけを含め、両市と連携して取組を進めていきたいと考えています。

国道 306 号は、県北中部を縦貫して都市を結ぶとともに、東名阪自動車道および新名神自動車道へのアクセス道路として重要な路線ですが、大型車の対向に十分な幅がなく、渋滞することから、亀山市川崎町から鈴鹿市東庄内町までの約 3.4 km 区間において、国道 306 号川崎庄内バイパスの整備が必要であると認識しています。

国道 306 号川崎庄内バイパスの整備にあたり、亀山市においては、ルート検討のためのワーキンググループへの参画や事前の土地調査の実施などにご協力をいただいております。改めて感謝申し上げます。

国道 306 号川崎庄内バイパスは、令和元年度から道路予備設計に着手し、令和 2 年度は地質調査および現地測量を実施しています。バイパス整備後の農耕活動に支障が生じないように配慮した道路構造となるよう、亀山市をはじめ地域関係者の方々の意見を聴きながら設計検討を進めるとともに、騒音などの環境対策や市道との交差点についても、亀山市と十分に調整を図りながら設計検討を進めます。

引き続き、今後の地元調整や用地取得等について、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、鈴鹿亀山道路は埋蔵文化財や重要な動植物の生息地・繁殖地、重要な史跡等の通過をできる限り避けた計画としました。事業の実施にあたって、亀山市とよく協議をしながら進めていきたいと考えています。